

頑張る高校生



高知商業高校ジビエ部

循環型社会の実現をめざして～森林保護活動参加～



高知商業高校ジビエ商品開発・販売促進部（通称「ジビエ部」）は、森林率日本一の高知県内で発生しているニホンジカやイノシシなど野生鳥獣による農林水産漁業への食害を重要な地域課題ととらえ、平成30年度よりジビエを利活用した商品開発及び販売を行い、得られた利益を森林保護活動に寄付している高知商業高等学校の部活動です。陸の豊かさを守ることを通じて循環型社会の実現を目指すことが部の活動目的であり、防鹿ネットや植樹用苗などの購入費用として、これまでに森林保護活動団体に60万円を寄付してきました。実際にニホンジカの食害を確認し、森林保護活動を体験するため、私たちは高知県香美市物部町にある三嶺周辺で行われた森林保護活動に参加してきました。

直接関わり被害を知る。活動目的を再認識する。

高知県香美市と徳島県三好市の間にそびえ立つ三嶺ではニホンジカによる食害の影響で森林や笹が消滅し土砂災害が起きるなど、野生動物による被害が深刻です。この間、ハンターによるニホンジカの捕獲や森林保護活動団体による植樹活動により、少しずつ以前の姿を取り戻しています。私たちジビエ部は森林保護活動に寄付金を贈るだけでなく、実際に現地を訪れ、被害を直接確認し、植樹活動や防鹿ネット敷設作業も行っています。それは、私たちの活動目的である「ジビエで陸の豊かさを守る」という考えを部員一人一人が再確認するためです。令和4年5月8日（日）に、20名の部員とジビエ部OGたちが森林保護活動に参加しました。



食害を受け皮が剥がれた樹木



現地で説明を受ける部員



防鹿ネットを敷設するジビエ部員

答えがない課題に取り組む勇気

「ジビエを使って商品開発したい」という生徒たちの声で始まったジビエ部は、活動5年目を迎えました。持続可能な開発目標（SDGs）は今や避けては通れない社会共通の指標です。「ジビエで陸の豊かさを守る」というジビエ部の活動は多くの人々や団体の支えによって成り立ってきました。その中で多くの生徒が「社会が必要としていることに対して自分たちが本気になって取り組めば、必ず理解し応援してくれる人がいるとわかった。また、何が正解かわからない課題に対しても勇気をもってチャレンジする勇気が湧いてきた」と考えるようになってきました。ジビエ部は高知県や日本、そして世界の未来を考え、循環型社会の実現に向けて引き続き、変わり続け、挑戦し続け、新たな価値を創造していきます。



みやびの丘でのジビエ部集合写真